

櫛真智命について（上）

国学院大学教授
神道学博士 健 橋 三

御嶽大神

武藏御嶽神社には御嶽大神が祀られます。御嶽大神とは櫛真智命・大己貴命・少彦名命をまとめていつた呼び方です。したがって、これらの三柱の神さまが武藏御嶽神社のご祭神ということになります。なお、三柱の柱とは神さまを数える時のことばです。

また、ご祭神とは神社に祀られています。神さまのことですが、これらはさらには主祭神と配祀神とに分けられます。そのうち主祭神とは、神社の中心にお祀りしてある神さまで、主神ともいいます。また配祀神とは、主祭神のほかに祀られている神さまで、相殿神と神ともいいますが、時には相殿神と呼ぶこともあります。これを武藏御嶽神社の場合にあては

めますと、主祭神は櫛真智命であり、大己貴命と少彦名命の二柱の神さまが配祀神（相殿神）ということになります。それでは初めに、主祭神の櫛真智命から説明することにいたします。

古い文献に見られる櫛真智命

櫛真智命というご神名（神さまのお名前）を、『古事記』や『日本書記』などに見ることはできませんが、一説に、天児屋根命の別名ではないかといわれています。また、神皇産靈尊（神魂命）のお子さんの櫛真乳魂命ではなかろうかとの説もみられます。さらに櫛真智命の元のご神名は、大麻等乃知神であるともいわれます。

このように、さまざまな説がありますが、これらの諸説は後でお話をします。

ちなみに、この神社は、現在、檜原市南浦町に鎮座する天香山神社にあります。例えは『新抄格勅符抄』の大同元年（八〇六）の牒にも

「櫛麻知乃命神」と記してあります。次に『三代実録』の貞觀元年（八五九）正月二十七日のところに「久慈真智神」の神階が從五位上から正五位下に昇つたとの記事がみえます。神階とは神位ともいって、朝廷から神さまに

たてまつる位階のことです。この神さまは『延喜式神名帳』に記載する左京くしまの二条坐神社一座のうちの、久慈真智命のことと考えられます。現在の所在地は不詳です。

櫛真智命の系譜

前に、櫛真智命とは、天児屋根命の別名とする説のあることにふれました。が、そのことは『尊卑分脈』の天児屋根命のところに、天児屋根命は興登魂尊と王主命の女の許登能床遲媛命とがご結婚されてお生まれになつた神さまであるということが、本系帳にみえると書いてあります。これをわかりやすく系図で示してみますと、興登魂尊（居々登魂尊）

許登能床遲媛命

天児屋根命

となります。なお、母神のご神名の床の字は、麻の誤りで、許登能床遲媛命は櫛真智命であり、そのお子さんが櫛真智命であろうとして、この神さまと天児屋根命とは同じ神さまであろうなどと『特選神名牒』などは記して

います。この説明には、いま一つつきりしないところがないでもあります。それはともあれ、平田篤胤は『古史成文』で、天児屋根命の別名を九種あげていますが、その中に櫛真智命と櫛真智命がみえます。つまり篤胤は、櫛真智命・櫛真智命は天児屋根命の別名であるというのであります。

また、手近にある『神道大辞典』を開いてみると、櫛真智命は神皇産靈尊のお子さんの櫛真乳魂命であると説明しています。名前が似ていますので、そのようにも考えますが、これは確証のあることではありません。そこで、念のため『尊卑分脈』の系図を掲げておくことにします。※印がいま話題になつている神さまです。なお、神魂命は神皇産靈尊の別名です。

天御中主尊 — 天八百万魂尊 — 天八下尊 — 天二下尊 — 天合尊 — 天八百日尊

※神魂命

津速魂命 — 市千魂命 — 居々登魂命

天御中主尊

天八百万魂尊

天八下尊

天二下尊

天合尊

天八百日尊

と天児屋根命とは同じ神さまであるうなどと『特選神名牒』などは記して

います。この説明には、いま一つ

ことにして、初めに確かな史料にもとづいて説明してみたいと思います。

まず櫛真智命を、クシマチノミコトと読むことには、どなたも異論はないと思います。そこで、古い文献の中につくのは、天平二年（七二〇）の『大倭國正税帳』に「久志摩知神」と記されています。

されでいることです。この神さまは『延喜式神名帳』大和國（奈良県）十市郡に記載される「天香山坐櫛真命神社」のご祭神のことです。